



さあ、おでかけしよう！



あひるのバーバちゃん

山脇 百合子 絵 神沢 利子 作 偕成社 E-ヤ

あひるのバーバちゃんが、まちへかいものにて出かけました。みちばたで、たくさんポケットをもったおとこのひとにてあい、バーバちゃんはおどろきます。スーパーマーケットにつくと、おいしいものがいっぱい、かごはすぐにいっぱいになりました。じょうぶでおおきなかいものぶくろをさがしていると、たくさんのポケットがついた、すてきなリュックサックをみつけます。

川のほとりのおもしろ荘

リンドグレーン 作 石井 登志子 訳 岩波書店 949-リ

おかあさんのおたんじょう日に、マディケンとおもしろ荘のみんなはお花畑へピクニックにいきました。川でおよんだり木登りをしたり、おかあさんがリュートをひきながら歌をうたいます。その後、ごちそうのつまったバスケットをあけようとする、牛がかけてきたので、みんなは木の上にてげました。けれども、おなかがすいてきたので、マディケンはいそいで木をおりてバスケットをとり、木の上でおかあさんのおたんじょう日パーティをはじめました。

(『おかあさんのおたんじょう日』)

いやいやえん

中川 李枝子 さく 福音館書店 913-ナ

赤い山、きいろい山、だいたいいろの山、くろい山、ももいろの山の五つがあります。とてもいいおてんきのひ、ちゅーりっぷほいくえんのみんなは、山のぼりがたくなりました。せんせいは、山のものをたべるときはなんでも一つだけ、くろい山にはぜったいにのぼってはいけないというやくそくをまもれば、いってもいいといいました。みんなはぼうしをかぶって、うたをうたいながら、赤い山からのぼりました。(『山のぼり』)

どうぶつえんのピクニック

アーノルド・ロベル 文・絵 舟崎 克彦 訳 岩波書店 E-0

あるひ、どうぶつえんのどうぶつたちが、わるいかぜにかかってしまいました。おいしゃさんにみてもらおうと、うんどうがたりないから、かぜがよくなったら、うみにつれていっておやりなさいといわれます。そこで、どうぶつたちがげんきになると、しいくがかりのマスターさんは、おべんとうをこしらえて、ピクニックにでかけました。

マウスさん一家とライオン

ジェームズ・ドーハティ 作 安藤 紀子 訳 ロクリン社 933-D

ピクニック日よりの午後です。マウスさん一家は心地よい木かげで、サンドイッチとピクルスと大きなスイカをたべ、父さんのギターにあわせて、たのしくさわぎはじめました。そのあと、しばらく休けいしていると、冨っ子のチェダーが「ねえ、ちょっと！なんかきこえない？」といいました。みんながじっとうごかずに耳をすますと、大きな木のうしろから、なんともきみよ^{おと}うな音がきこえてきます。

やまのぼり

さとう わきこ さく・え 福音館書店 E-サ

「いよいよはるだねえ。てんきもいいし、やまのぼりでもするか」とばばあちゃんが、まどからとおくをみていいました。それをきいて、こいぬとこねこはだいさんせいします。ところが、もりのどうぶつたちがいろいろもってきたので、にもつのやまができました。ばばあちゃんは、もっていけるわけないとあきれましたが「うちじゅうのカーテンをもっておいで」とみんなにいいます。

たのしい川べ ヒキガエルの冒険

ケネス・グレーアム 作 石井 桃子 訳 岩波書店 933-G

金持で気まぐれなヒキガエルが、ひとりで設計したジプシーの箱馬車で、ネズミとモグラと旅行に出かけました。3人が街道をのんびり進んでいると、ブーンというハチのうなり声のような音がきこえてきます。ふりかえると、なにか力強い黒いものが、もうれつないきおいで突進してきました。そして、かれらの自慢の箱馬車は、胸のはりさけるような音をたて、とりかえしのつかないこわれものとなりはてます。